

【人材育成学会第6回研究会】

## 「再び評価されはじめたドラッカー研究の意味」 ～ドラッカーの直弟子3人のレポートから～

去る2月に1か月間、日本経済新聞の『私の履歴書』に連載され、日本でも再び大きな反響を呼び、さらに英文の『The Daily Drucker』が刊行されて高く評価されるなど、このところ御年95歳になる経営学の大先輩ピーター・F・ドラッカーへの関心が高まっています。すなわち、経営を単なる技術とか理論としてとらえず、市場開発と革新展開を重要な軸として、現実のマネジメント活動の本質に肉迫するドラッカーのあり方が今日再び注視されていると言っても過言ではありません。

そこで今回の研究会では、通常の場合とやや趣を変えて、ドラッカー経営の本質と効果と面白みに関して、本学会の小林薫副会長のリードのもとに、2人のベテラン・コンサルタントからドラッカーのホットな今日的意義を実践的に追求します。

必ずや今回の研究会から具体的な役に立つヒントが数多く得られることを信じてやみません。

研究会企画担当 大泊 剛 (株式会社人事工学研究所 代表取締役所長)  
小林 薫 (産能大学名誉教授)

●日時 2005年 6月29日(水) 14:00～17:45

●会場 (学)産能大学 自由ヶ丘キャンパス 1号館5階 大会議室

### ●プログラム

14:00—14:30

【イントロダクション】 小林 薫 (産能大学名誉教授)

「ドラッカー経営学の今日的意義」——「表の風に吹かれろ」や「有能さは習得できる」などの生きた言葉を中心に生きたドラッカー式マネジメントを考える

14:30—16:45

【報告1】 国永 秀男氏 (株式会社ポートエム 代表取締役)

「ドラッカーに直接指導を受けているゼミの展開と応用」革新とは、単なる新しいコトではなく、新しい世界観を意味すること、さらに先見力と構想力の磨き方を考究する

【報告2】 伊原 美恵子氏 (人事教育コンサルタント)

「The Peter F. Drucker and Masatoshi Ito Graduate School (クレアumont大学 院)での授業より」

16:45—17:45 【全体討論と質疑応答】

※途中休憩を入れます。